

3. 取組み事例（1）対象者別事例
 ③職域一企業＜製薬会社＞（木更津市）

③ 職域（企業）＜製薬会社＞

市町村名	木更津市
------	------

取組みの具体的内容

講座の基本情報

受講対象者	製薬会社（東邦薬品株式会社）社員		
受講人数	17名（8名、9名と2日に分けて開催）		
講座開催時間	120分 （15:00～17:00）	開催場所	東邦薬品株式会社 木更津営業所2階会議室
開催メイト数	各2名	実施企画	受講者からの依頼
ボランティア等	見学として、同市の地域包括支援センターから各1名		
使用教材	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症サポーター養成講座標準テキスト <input type="checkbox"/> 認知症サポーター養成講座中学生用副読本 <input type="checkbox"/> 認知症サポーター養成講座小学生用副読本 <input checked="" type="checkbox"/> 100万人キャラバンDVD		
独自の取組み	ロールプレイ		

※■は使用教材。

カリキュラム

1	ビデオ上映（キャンペーンビデオ）
2	認知症サポーター100万人キャラバンとは
3	認知症とはどういうものか
4	接する時の心がまえ、家族の気持ち
5	こんな時どうする？考えてみよう！！ （1）スーパーのレジで支払いができず、もたついているおじいさん （2）朝ご飯を食べたばかりのおばあさんが家族へ「朝ご飯はまだか？」 （参加者に自分の発想で演技をしてもらい、その後望ましい対応について解説。）
6	ビデオ上映（千葉県版）
7	相談機関について

- 8 認知症予防について
- 9 認知症サポーターのできること
- 10 質疑応答・贈呈式

工夫点・特に気を付けていること

- カリキュラムの内容は、団体の構成メンバー等により、少しずつ変えて、より分かりやすくできるように工夫。
- カリキュラム全体の説明内容について、説明文書を作成。メイトの誰が講座を開催しても同じ内容の説明が受講者にできるように工夫している。
- カリキュラム「5 こんな時どうする？考えてみよう！！」では、具体的な場面を設定して受講者の方に実際にどう対応するかをやらせようというロールプレイを取り入れた。
- ロールプレイでは、まずは参加者に自分の発想で演技をしてもらい、その後で望ましい対応について解説を行った。

取組みの背景、講座開催のきっかけ

東邦薬品の東京本社から各営業所へ、認知症サポーター養成講座を受講するように指示があり、木更津営業所の所在地が当地域包括支援センター担当地域内の為、問い合わせを頂き、開催となった。

対象者が一般企業の方で年齢が20歳代～50歳代であったこと、また、参加人数が10名以下であったことから、ロールプレイを取り入れてみると良いのではないか、と考えた。

受講者からの質問、意見等

（1）困っていそうに見えてもどんな反応が返ってくるのかわからないから、声をかけるのをためらってしまうかも…。

（2）実際の場面で声をかけたり手伝ったりすることは難しい…。

取組みの具体的効果、成果

- ロールプレイは、参加人数によっては参加者の受講意欲も上がり良いと感じた。受講者が実際にやってみることで、いろいろ考えることができると思う。
- 受講者から感想として、「対応の仕方についてロールプレイを行い楽しく学習できました」とあった。
- ロールプレイではなく、「あなたならどうする？」の具体的な場面を質問として紙に書き、予め答えを3つ記載しておき、その中から受講者に選んでもらう形を取った。

取組み上の課題点、問題点、解決策

- DVDを見た後、病態生理や接し方などをテキストで学んだ後でありましたが、食後にご飯を食べていないという訴えに対しては、食べたことを思い出させようとする説明や証明しようとする声掛け、また「では、何が食べたいですか？」と問いかける声掛けもありましたので、頭では理解できたとしても実際の対応として適切にやることは難しいのではないかと感じた。
- ロールプレイでは、その役割のセリフは用意せずに参加者の考え・発想で対応してもらいましたが、ある程度、セリフのパターンを用意しておいた方が演技しやすく、気づきに繋がるのではないかと意見もあった。
- 認知症高齢者への対応の仕方によっては、違った反応が返ってくることを学ぶことで、かえって心配になった方がいたので、まずは見守る姿勢が良いということ、何かをしなければと気負わなくて良いということを説明した。

問い合わせ先

【事務局】

木更津市高齢者福祉課支援担当

TEL：0438-23-2695 / FAX：0438-23-7181